

更新ニュース 2021

2021 年春公開予定

世界国勢図会 2020/21 【矢野恒太記念会】



入試問題、講演会資料など、幅広く利用されている『日本国勢図会』の国際統計版。経済・社会の主要分野から豊富な項目を取り上げて、各国の最新のデータを収録。

【内容】 世界の国々／人口と都市／労働／経済成長と国民経済計算／資源とエネルギー／農林水産業／工業

／貿易と国際収支／財政・金融・物価／運輸／情報通信・科学技術／諸国民の生活／軍備・軍縮

朝倉 数学辞典 【朝倉書店】



大学学部学生から大学院生を対象に、調べたい項目を読めば理解できるよう配慮した中項目主義の数学辞典。高校程度の事柄から専門分野の内容まで、数学諸分野から 327 項目を厳選して五十音順に配列し、可能な限り平易に解説する。

【内容】 集合・位相・論理／代数／整数論／代数幾何／微分幾何／位相幾何／解析／特殊関数／複素解析／関数解析／微分方程式／確率論／応用数理／他

2021 年度中公開予定

明治文学全集 (全 99 巻) 【筑摩書房】

近代日本を築いた明治年間の文学遺産を多方面に網羅する、歴史的大全集。未発表資料・稀覯本・入手困難な著作を可能な限り収め、埋もれた作品を発掘・収録。小説偏重を脱し、広義の文学の視野に立って歴史的・体系的に編集した。さらに、代表的研究・作家論・作品論を各巻に収め、詳細な解題・年譜・参考文献も併録する。



角川類語新辞典 【KADOKAWA】



わが国初の画期的シソーラス。現代日本語約 5 万語を意味別に分類・体系化した類語辞典。ある言葉を検索し、その語と類似した語の意味の違いを知ることができる。さらに、類語の意味と用法を理解し、正確に使分け豊かな文章表現に活かすことができる。伝えたい内容を表すために適切な言葉が浮かばないとき

や、重複を避けて別の語に置き換えたいときにも役立つ。すべての語に位相付き。

+R つきのコンテンツは「JK パーソナル+R」コースでのみ使用可能です。

お問い合わせ NetAdvance

株式会社ネットアドバンス (小学館グループ)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-30 昭和ビル 3F

●E-mail: support@japanknowledge.com

プロに聞きました——ジャパンナレッジ活用術

多種多様なテレビ番組のリサーチャーを務める喜多あおいさんは、「ジャパンナレッジ」をサービススタート時から利用されています。調べもののプロはどんな使い方をされているのか、お話しをうかがいました。

◆発想のヒントをくれる『字通』

ジャパンナレッジはスタートからなので 20 年の付き合いになります。初めは個人で利用していたのですが、『日本国語大辞典』が入った時点で、会社で使えるようにしてもらいました。国文科出身の私にとっては、『日国』が世の中でいちばん信頼できる辞典。教わった先生方には「『日国』でなければならず」とおっしゃる方も。また我が社では複数ソースで裏どりすることを徹底していたので、コンテンツが一度に引けるジャパンナレッジは時間のないテレビ業界の仕事では大いに役立ちました。

よく好きで使うのは『字通』。裏どりの重要な拠りどころの一つです。特にクイズ番組では誤った情報を採らないよう、「そもそも」を確認するのがリサーチャーの役目。最終的なアウトプットは番組責任者に任せますが、甲骨文字ではどう書かれていたとか、中国の先人たちはどう解釈してきたとか、そういった「そもそも」の情報に立ち返って確認するときは、『字通』ははずせません。

また調べものをするとき、私はつねづね“お土産”を得たいと思っています。たとえばいま、編纂者の白川静先生に敬意を表して「白」を調べてみると、「頭顱（とうろ）の形で、その白骨化したもの、されこうべ。雨露にさらされて白くなるので、白色の意となる」とあります。「ああ、こういう成り立ちだったんだ」とお土産をもらうと、次の仕事に活かせたり、何かを発想するときの入口が増えたり……1つの文字を多角的に捉えられる『字通』からはそのヒントをたくさん得られるんです。

テレビ番組をきっかけに、広告代理店のマーケティング調査や企業のリスク管理など、私の中で“リサーチ”の仕事がここ数年、広がりました。いまの私に求められているのは、ただ調べるのではなく、調べることであらゆるクライアントの発想のスイッチを押すこと。そのためには「昨日」と同じ調べ方はしたくない。“人”“モノ”“こと”という情報と正面から向き合って、調べ方をアップデートすることが私の日々の課題です。

◆比較・対照には『国史』、百科事典は著述者に注目

歴史的事項や人名を調べるとき、百科事典とともに必ず『国史大辞典』を利用します。特に歴史分野は、教科書レベルで情報更新がある世界。テレビ番組でもジャン

ルにより、扱う情報の新しさや深さが変わります。そこで古の研究からの歩みが確認できる歴史辞典『国史』が有効なんです。たとえば「織田信長」の項では『国史』にあるほんの一行や一言が、いまの事績とは異なるとか。決して内容がガラッと変わっているわけではないのですが、現在のアップデートされた情報と比較・対照に有効なのが『国史』なんです。

また百科事典では内容だけでなく、著述者にも注目します。この著述者は何年代に活躍されたとか、物故者かどうかとも調べます。情報は鮮度がキーポイント。そこはつねに意識します。『世界大百科事典』の動物の項では『ざんねんないきもの事典』著者の今泉忠明先生のご家族の手になるものが多い……などの発見も。

◆まずは辞書・事典で王道の情報に触れることが大事

「脳」はファーストインプレッションをめぐるのが苦手です。だから最初に触れる情報は王道で信頼できるものが安心。私にとってそれは辞書・事典です。その「1語の解説」が世に出る前に、多くの人の目と多くの時間、辞書によっては数十年単位の年月が費やされています。まずは辞書・事典で自分の中に基軸を作ったあと、自由な解釈が入った情報に触れる。縦横に比較・対照することで、その情報がさらに活性化していくと思います。

きた 喜多あおい（リサーチャー）

株式会社ズノー執行役員。1994年よりテレビ番組のリサーチャー。近年は企業のリスク管理やマーケティング調査、情報術・リテラシー講演なども担っている。「辞書と事典の資料室@神保町」の室長も務め、2021年、その蔵書を紹介するYouTubeチャンネル「リサーチャー KITA AOI」(https://www.youtube.com/channel/UCFh_v5g-5iP7I9wVGEXku_Q)を開設。著書『必要な情報を手に入れるプロのコツ』など。

